

めむろ「パパ・スイッチ事業」

キーワード：父親、子育て、地域

活動の内容 子育てを楽しめる街づくりを

・目的

子育て中の父親（主に乳幼児から小中学生の父親）やこれから子どもが生まれる予定の男性を対象とした、講演会や親子イベントなどを開催し、父親の子育て参加の意識を高め、「子育てが楽しい」と思える家庭を増やすことを目的とする。

・開始時期

平成 22 年 4 月～

・内容

1. インターネットによる「父親交流サイト」の開設・運営
2. サイトを通じて知り合った父親同士の交流会(例会及びオフ会)の開催
3. 講演会及びフォーラムの開催
4. 委員会会議
5. 普及・広報活動

活動のきっかけや目的 NPO法人との「出会い」をきっかけに

もともと芽室町は「子育てにやさしいまちづくり」をまちづくりの柱に掲げ、行政と地域が連携して街づくりをしてきた歴史がありました。今では産科・小児科を有する病院や託児サービスなど、地域資源に恵まれた町として近隣からも一目置かれる存在になりました。しかしながら、町を挙げて子育てに力を入れていても、子育ての主たる担い手が母親であるという実態に変わりはなく、父親の支援がなかなか得られないという母親の嘆きが無くなることはありませんでした。

事業開始のきっかけは、NPO法人ファザーリングジャパン代表の安藤哲也氏との出会いでした。「父親であることを楽しもう」「父親が変われば社会が変わる」という発想に感銘を受け、以後、安藤氏を招いての講演会や父子イベントを開催し、平成 22 年から本格的に「パパスイッチ事業」が開始されることとなりました。現在も、父親の子育て参加の意識を高め、「子育てが楽しい」と思える家庭を増やすことを目的として活動を続けています。

活動の成果や今後の展開 父親ネットワークによる地域の活性化

- ・ 講演会・講習会、イベント等の実施により、地域の人々への啓発が進んだ。
- ・ 新聞、TV 等のマスメディアで事業が紹介され、町内外に広く情報発信することが出来た。
- ・ 父親同士のネットワークが広がり、家族同士の交流が自然発生的に増えていった（町民ハイキング、お祭りへの参加など）。
- ・ 実行委員会に対し、地域の子育て関連のイベントへの参加・協力依頼が寄せられるなど、地域資源の一つとして認知されるようになった。
- ・ 厚生労働省「イクメンプロジェクト」イクメンサポーターに芽室町が自治体として登録。
- ・ 厚生労働省「イクメンプロジェクト」第1回「イクメンの星」に、めむろ「パパ・スイッチ実行委員会」実行委員長五十嵐豊氏が選出。

ポイント

- ・ 父親を活動に巻き込むためには仕掛けが必要です。チラシやHP上で告知するだけでは、人は集まりません。「〇〇を作る」など目的がはっきりした活動だと、参加しやすいし誘いやすいです。

その他

初めは様子見程度に参加していたメンバーが、イベントを重ねるごとにどんどん積極的になり、自ら活動を提案したり、周囲を巻き込み始めたときには、手ごたえを感じました。

参加者の声

現在、実行委員として活躍している男性メンバーからは、「以前は子育てには全然関心が無かったけれど、パパスイッチの活動を通じて、『自分自身を変えたい』と思うようになった。パパスイッチの活動を見にきた妻や子どもが喜んでいる姿を目にすると、私自身も元気をもらい、やりがいにつながっている。今後もこの活動を続けていきたい」との感想を頂きました。また、彼のパートナーの方からも「以前とは別人のように、育児や家事に参加してくれるようになった」とお墨付きを頂いています。



北海道芽室町

『パパ・スイッチ事業』ホームページ

http://www.ikujinet.jp/papa/?page_id=40